

都市計画道路補助第283号線拡幅計画に反対する陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第43号

受理年月日 令和2年6月 3日

付託年月日 令和2年6月25日

陳情者
.

陳情原文 2019年の1年間で運転免許証返納者は60万人以上に達しました。前年比約43%増で、特に75歳以上が20%、35万人と全体の60%近くになりました。

また、2018年末時点で18歳～24歳の運転免許保有数は、20年ほど前より300万人近く少なくなっています。自動車離れが進んでいるのです。

都市計画道路補助第283号線が計画されたのは昭和41年(1966)で、今から54年前のこと。しかし、当時と現在を比べれば、283号線拡幅計画は住民の健康問題、環境破壊、交通問題に限りない課題を課しているのです。

まず、16mもの拡幅は高齢者、児童にとって横断しにくい道路、通りにくい道路となり、歩道橋でも造られれば、なおさらではないでしょうか。

環境破壊も同じです。住宅街を16mもの道路が貫通すれば、乗用車に限らず商業車、トラックなども制限速度30kmを守ることなく、猛スピードで7丁目、4丁目などを走り抜けるに違いありません。住環境は一変するでしょう。これは熟慮の上にも熟慮を重ねねばならない計画です。

一昨年開通の外環道により、篠崎街道北行で30%、同南行も30%減となっています。

以上のことを考えても都市計画道路補助第283号線の拡幅計画に反対し、下記のとおり陳情します。

記

住民の健康問題、環境破壊などを考えれば、交通量が減少する中で、何故、道路拡幅をするのでしょうか。私たちは住みにくい町と化す都市計画道路補助第283号線の拡幅計画に反対します。